

# 東京都立 多摩総合医療センター

## 部長職就任のご挨拶ならびに診療科ご紹介

精神神経科部長 岩田 健



今年4月より精神神経科部長になりました岩田です。よろしくお願いたします。私は平成4年に東京医科歯科大学を卒業後、都立松沢病院にて初期研修を受けました。ちょうどその前年に坂口先生が初代部長、西村先生（現 にしむらクリニック）が医長として松沢病院から転出されて旧府中病院の精神神経科が開設されたと記憶しております。両先生とも時々、松沢に顔を出していらしたのですが非常にアグレッシブな、熱量の高い勢いのある様子であったと記憶しております。

当時から当科の最大の課題は当院の重点課題にもなっている精神科救急、多摩地域の夜間休日の緊急措置診察業務です。一般の救急医療とは異なり、警察官通報が起点になっております。昨年度は感染症の影響もあり件数が減りましたが、それでも年200件を超えており、自殺企図後に身体的な入院が必要で無い方が希死念慮を訴えて警察官通報を経て措置診察を受けることも珍しくありません。

守成の時代ですが有り難いことに多くの課題があります。最近ますます増えてきたのが、他科の入院中の方のコンサルテーション・リエゾン（併診）で、去年は年間900件を超えました。この背景には高齢化によるせん妄の発生率、発生件数の増加、医療の高度化（例えば臓器移植）や感染症による閉鎖空間への隔離等による精神的なストレスがあげられると思います。この対象になった方々は精神科医療機関を受診したことがない方が大半です。精神科の治療の手法が他科の治療において用いられることもあり、前任地では心理士と協働して糖尿病の血糖コントロールなどに動機づけ面接や行動変容を促す面接を行ったこともあります。

一方で、私が卒後研修のころから言われてきたのが精神疾患の軽症化（と、対象となる方の拡大）ですが、いわゆる二大精神病以外の精神疾患の既往のある方が一般病床に入院になることは今や当たり前のようになってきております。比較的重い精神疾患の方も我々が併診するという条件も含めて、身体的な治療と精神疾患の治療の優先度を比較考量した上で適切な病棟で入院加療を受けられるようになってきました。

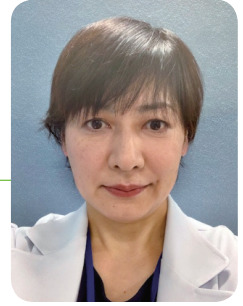
また、医療現場におけるストレスの増加は患者さんだけでなく医療者への影響も与えており、例えば感染症対応現場では職員向けのメンタルヘルスケアが求められておりその一部を我々も担っております。

私自身は前任地の都立広尾病院が無痙攣性電気痙攣療法を国内で最初期に行った二つの施設の一つであったこともあり、電気痙攣療法の臨床研究、基礎研究を行ってきました。それ以外に、物忘れ外来や、うつ病患者さんやパニック障害患者さんへの認知行動療法を勉強して実践してまいりました。現在、コロナ後遺症相談窓口へ電話相談の有った方のうち精神的な問題（うつや不安、それを伴う認知機能障害を想定しております）を抱えている方への診療を企画しているところです。ご指導ご鞭撻いただければ幸いです。





# 診療放射線科部長の就任のご挨拶、 ならびに当科のご紹介



診療放射線科部長 泉 佐知子

このたび令和3年4月1日付けで診療放射線科部長職を拝命いたしました、泉佐知子です。どうぞよろしくお願いいたします。

## ◎診療放射線科のご紹介

### 画像診断部門：

常勤・非常勤医師が一丸となって、日夜CTやMRIの読影、緊急出血に対する血管内治療などに奮闘しております。私が医師になった当時CTは10mmスライス厚で、一人撮像するのに30分時間要していました。今や1mmスライス厚の撮影が当たり前となり、撮像スピードも飛躍的に向上したため、読影枚数・件数は増加し、以前には見えなかった疾患も見えてしまい、画像診断医の負担は増加する一途をたどっています。当院でも院内・地域の先生方の期待に応えるべく、努力しておりますが、診断の質と量の双方を確保することが年々難しくなっています。そのため、診断の質と量の確保を喫緊の課題として、今後は遠隔読影システムの導入などの対策も検討しております。

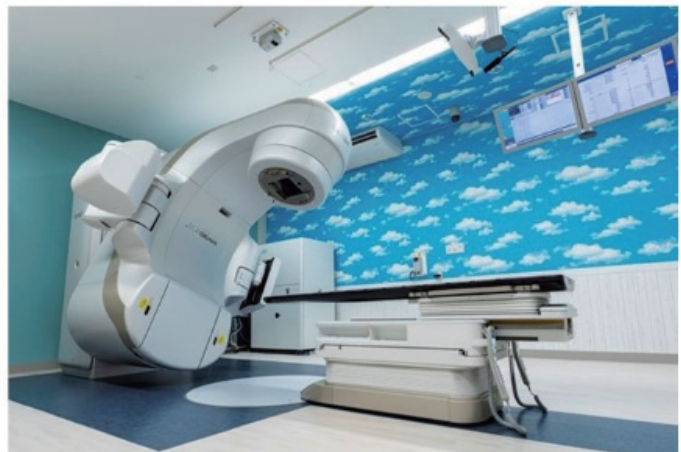
### 放射線治療部門：

本年4月より最新型の放射線治療装置である、TrueBeam<sup>®</sup>システムが稼働を始めました。治療装置本体にCTが搭載されていることで、治療直前に寝台上でCTを撮像して位置補正を行い、より正確な治療が可能となりました。また呼吸に合わせた腫瘍の位置を予測して治療範囲を設定する「呼吸同期放射線治療」、治療装置が回転しながら強度変調治療を行う「VMAT」、複数個の脳転移に対して同時に狙い撃ちの放射線治療を行う「Hyper Arc」などの新しい機能も搭載されております。今後、これらの機能を駆使して、よりピンポイントに、副作用を減らした放射線治療を皆様に提供してまいります。副作用が少ない治療であれば、高齢者でも外来で治療が可能で、患者さんの状態にあわせて最適な治療を提案させていただきます。放射線治療を行わないことが最適である場合も、理由を含めてお話しさせていただきますので、適応に迷った場合でも是非、お問合せ・ご紹介いただければ幸いです。

### 核医学部門：

核医学検査は、形態だけではなく機能が診断できることが大きな特徴です。近年では高齢化による認知症の増加に伴い、脳血流SPECTなどの機能評価も脚光をあびております。連携室を通じて検査の予約をいただければ、検査後に読影結果もあわせて報告しておりますので、是非ご利用ください。

現在、医療を取り巻く情勢は、新型コロナウイルス感染症の対応の長期化によりめまぐるしく変化し、多摩地域の先生方においても数年前には予想もできなかった大変な思いをされていることかと存じます。当院では感染症科の先生や院長をはじめとし、現場で実際に患者診療にあたる多くの若い先生方、スタッフの奮闘のおかげで、幸いにもクラスター発生もなく、コロナ診療以外の診療も続けることもできております。一日も早く、必要な医療が必要な患者さんに提供できる日が戻ってくることを心より願っております。



新しく導入されたTrueBeam<sup>®</sup>放射線治療システム。  
青を基調とした、明るい室内で、患者さんにも好評です。



# ゲノム診療科のご紹介



ゲノム診療科医長 井上 大

## はじめに

ゲノム診療科では、遺伝性腫瘍の診療のほか、周産期や難病領域に至るまで、広い範囲で遺伝診療を行っております。多摩地域の遺伝診療の需要に広くお応えすることを目標としておりますので、連携医療機関からの患者さんのご紹介をお待ちしております。

## 当科での取り組みについて

遺伝性の要因でがんを発症しやすい体質をもつ方は、がん全体のうち5%と考えられています。近年、乳がんや卵巣がんの患者さんにおいて、一定の条件下での遺伝性乳癌卵巣癌症候群の遺伝子検査と検査陽性者に対するリスク低減手術（卵巣癌・乳癌のリスクを下げるためがんを発症する前に予防的に卵巣・卵管や乳房を切除する手術）などが保険適用となりました。そのほか、近年は分子標的製剤による抗腫瘍効果を予測する目的で遺伝子検査を行うことが日常診療の一環として行われております。当科では、遺伝性腫瘍診療の需要にお応えすべく、**遺伝性腫瘍外来にて連携病院からの患者さんのご紹介を受け付けております。**

難病領域では、多彩な症状を抱えながら適切な診断・治療に至らずに苦しんでいる患者さんがいます。近年、難病に分類される病気の何割かが遺伝子の変化によって起きていることが判明しています。令和2年以降、難病領域の遺伝子検査の多くが保険適用で実施可能となりました。当院では、難病に関わる複数の診療科と協力して難病の遺伝外来を行っております。その他、周産期関連では、前児が先天性疾患と診断された方、ご自身やパートナーが遺伝性の疾患と診断されている方など、今後の妊娠や家族計画について不安であったり、正確な情報を求めている方に対し、適切な情報提供を行い、またその方・カップルに合った意思決定などにつき、当院産婦人科や隣接する小児総合医療センター臨床遺伝科と協力しながらお手伝いをさせていただいております。

## 当院の遺伝カウンセリングについて

このように遺伝子検査の臨床応用により多くの患者さんがその恩恵を受けることができるようになりました。一方で、遺伝情報は、生涯変化しない（不変性）・将来の病気の発症しやすさを予測できる（予測性）・血縁者と共有する情報である（共有性）という性質があり、それを知ることによる本人や血縁者にとっての影響は少なくありません。そのため、遺伝子検査を行うかどうか、検査陽性であった場合はどのように対応するか、陰性であった場合はどうするかなど、事前に遺伝の専門医や認定遺伝カウンセラーが遺伝カウンセリングを行い、その患者さんの意思決定支援のお手伝いをすることがとても重要です。

当院の昨年度実績では、約600件の遺伝カウンセリングを行い、年間200件を超える遺伝子検査を行いました。一方で遺伝子検査を行わないという結論を選択する方に対してもその意思を尊重し、本人やご家族のその後の健康管理の支援を行っていることも、当院のゲノム診療の大きな特長であると考えております。

## 患者さんのご紹介方法

遺伝性腫瘍外来に関しては医療機関からのFAXを用いた医療連携経由での予約のみ受け付けております。当院ホームページ>ゲノム診療科>医療者の方へ、のページに詳細に記載があります。

URL: <https://www.fuchu-hp.fuchu.tokyo.jp/about/department/genome/mdhaq/>

その他の領域に関する遺伝カウンセリングに関しましては、当院医療連携担当までお問い合わせください。



ゲノム診療科診察室



## ●● 各種講習会・勉強会のご案内(医療従事者向け) ●●

※決定後ホームページで更新しています。

### 第99回 医療連携臨床懇話会 web開催

- 「慢性硬膜下血腫に対する最新治療」 脳神経外科  
令和3年10月21日(木)午後7:00~午後8:00

## ●● 各種講習会・勉強会のご案内(患者さん向け) ●●

※参加無料、事前予約不要です

### 糖尿病講習会

会場：都立多摩総合医療センター講堂フォレスト

※会場が「東京都がん検診センター3階講堂」になる場合があります。当日ご確認ください。

日時：毎月第3水曜日 午後2:00~午後4:00

- 「糖尿病の内服薬」「糖尿病の運動療法」「嗜好品等について」  
日時：令和3年9月15日(水)
- 「メタボリックシンドローム」「血液検査について」「動脈硬化と食事」  
日時：令和3年10月20日(水)
- 「糖尿病と高血圧」「糖尿病の入院について」「減塩方法の実際」  
日時：令和3年11月17日(水)
- 「糖尿病とインスリン」「インスリン製剤の管理」「年末年始の食生活」  
日時：令和3年12月15日(水)
- 「糖尿病と脳梗塞」「尿検査について」「脳梗塞予防の食事管理」  
日時：令和4年1月19日(水)
- 「糖尿病と心臓」「糖尿病の運動療法」「心電図について」  
日時：令和4年2月16日(水)
- 「糖尿病神経障害」「フットケアについて」「食事の自己評価方法」  
日時：令和4年3月16日(水)

※詳細はホームページをご覧ください。

当院は原則として、**紹介予約制**です。外来及びCT、MRI検査は必ず予約を取り、紹介状をお願い致します。

ご意見、ご投稿、お問い合わせは医療連携担当(内線2171)まで

#### <電話予約センター>

月~土 受付時間 午前9:00~午後5:00

TEL: 042-323-9200

#### <FAXによる診療予約>

月~土 受付時間 午前9:00~午後5:00

FAX: 042-323-9205

### 緊急の場合…必ず事前にご連絡ください

代表電話：042-323-5111から、①平日の午前9:00~午後5:00は「〇〇科責任医師」、②午後5:00以降、土曜日、日曜日及び祝祭日は「〇〇科の救急担当医」とお申し付けください。

連携医ホットライン：042-312-9119 月~土 午前9:00~午後8:00(祝日年末年始は除く)

連携医の先生方専用の当院医師への直通電話です。当日の緊急診療依頼にぜひご利用ください。

※一部の診療科では、夜間・休日は専門医がおりませんので診療できない場合があります。

※受診が決まった場合は、患者さんに紹介状(診療情報提供書)をお渡しください。

東京都立多摩総合医療センター 〒183-8524 東京都府中市武蔵台2-8-29  
TEL 042-323-5111(代表)

